

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

未来予測が困難な社会を生き抜くために、グローバルな視点で、自らがアクションを起こし、社会をリードする人材を育成する学校をめざす。そのために新たな価値を創造する力、社会を生き抜く人間力、多様性を尊重する社会的包容力を養う。

1. めざすべき生徒像

①「人・社会・世界」の発展に貢献する高い志を持ち、己を鍛える生徒	鍛える
②幅広い教養を身につけ、知性を磨き、新たな価値を創造する生徒	創造する
③社会の多様性を認識し、「人・社会・世界」と繋がる生徒	繋がる
④以上のことを実現するために、己の将来を描くことができる生徒	描く
2. めざすべき教職員集団	
①生徒・保護者に寄り添いながらも、新たな教育課題に対して果敢に挑戦する教職員集団	挑戦する
②常に学びの姿勢を持ち、切磋琢磨する教職員集団	切磋琢磨する
③他者理解に富み、アイデンティティを尊重する人間味あふれる教職員集団	人間味が豊かである
④互いの持ち味を認め、多様な力を糾合するチーム力のある教職員集団	チーム力がある

2 中期的目標

1. 高い志を持って己を鍛える力の育成

- (1) 思考し、探究する力の育成：1年『産業社会と人間』、2、3年『総合的な探究の時間』、探究的学習の体系化
※卒業時の産業社会と人間と探求の学びを測るために学校教育自己診断「産業社会と人間・総合的な探究の時間・探求的な学びができた」生徒②における3年生の肯定的回答を、R3に70%以上とし、R5には80%以上とする。(H30:データ無、R1:74.1%、R2:44.1%)
- (2) 自尊心の醸成を促し、「自主自律」を基本に己を律する力の育成
※遅刻者数の一層の低減を行い、R3にR2以下、R4年度に2000回以下にする。(H30:4971回、R1:4141回、R2:2647回)
※卒業時の学校教育自己診断「先生方は生徒の意見をよく聞いている。」生徒③(H30:71.3%、R1:61.5%、R2:60.6%)での肯定回答をR3は65%以上に、R5には70%以上に。「担任の先生以外にも気軽に相談することができる先生がいる。」生徒④(H30:54.7%、R1:51.6%、R2:54.5%)での肯定回答をR3は60%以上、R5には75%以上とする。
※学校教育自己診断「今宮高校で人として成長したと思う」生徒③における3年生(H30:90.5%、R1:87.7%、R2:89.3%)の肯定感を85%以上とし、この数値を維持する。
- (3) 国連が提唱するSDGs・ユネスコスクールを「ジブンごと」化し、アクションを起こす力の育成：自治会活動や産社・総探・課題研究を通じて、SDGsの17の目標のいずれかについて全校的な取組を推進
※学校教育自己診断「本校は、ユネスコスクール・SDGsを推進している」生徒⑥(H30:データ無、R1:52.3%、R2:65.1%)ではR5には75%以上、「自ら課題を発見し、自分の身の回りから社会を変革する力がついた」生徒④(H30:データ無、R1:60.4%、R2:60.1%)では、R5に75%以上の肯定的評価にする。

2. 幅広い教養を身に付け、思考力・判断力・表現力を養い、主体的に学ぶ力を育成する。

- (1) ICT活用、授業アンケート、研究授業、授業評価をフィードバックし、教科毎に授業力を向上させ、進路実現に結びつく質の高い授業を生徒に提供する。
※学校教育自己診断「学ぶことの意味について考え、授業を大切にするようになった」生徒⑤(H30:データ無、R1:71%、R2:75.5%)をR3は75%以上、R5年度には、80%以上の肯定的評価とし、学校教育自己診断「本校の学習だけで、進路達成に必要な力が身につく」生徒⑥(H30:データ無、R1:53%、R2:53.4%)をR3は55%以上、R5に65%以上の肯定的評価とする。
- (2) 『考える力』、『まとめる力』、『伝える力』の育成：生徒が発表する機会・場の提供と生徒相互の取組みへの支援・育成
※「今高生の主張(3年)」、「英語スピーチコンテスト(1、2年)徒自治活動、クラブ活動、サマーセミナーの実施
※学校教育自己診断「この学校の授業では、自分の考えをまとめたり、発表することがよくあった。」生徒⑩(H30:データ無、R1:84.6%、R2:84.8%)をR3には85%以上の肯定的評価とし、その後それを維持する。
- (3) 自らが学びへの高い志と意欲をもって学習に取り組む生徒の育成
※学校教育自己診断「家庭学習を毎日した」生徒⑧の肯定的評価をR3では40%以上にし、R5年度には50%以上とする。
(H30:36.8%、R1:24.9%、R2:26.9%)
- (4) 4技能をバランスよく配した英語の授業の推進とそれぞれのレベルでの英語表現力の向上
※英検2級以上の合格者を2年生終了時に20%以上とする。(新規、データなし)

3. 社会の多様性を認識し、「人・社会・世界」と繋がる力を育成する。

- (1) 国際感覚と国際交流力の育成：ユネスコスクール・SDGsに取り組み、多様な文化を理解する国際交流を促進する
※学校教育自己診断「本校は国際交流に力を入れている」生徒⑨(H30:データ無、R1:66.7%、R2:43.6%)を、R3では肯定感を65%以上、R5には75%以上とする。
- (2) 共生推進教室を中心に、「共に学び、共に育つ」インクルーシブ教育の推進を行う。
※学校教育自己診断「障がいがある人たちと『共に学び共に育つ』大切さを学ぶ機会があった。」生徒⑧(H30:データ無、R1:60.7%、R2:61.7%)を、R3は65%以上、R5には70%以上の肯定的評価とする。
- (3) 小中学校、地域、地元自治体と連携した防災活動を充実させる。
※学校教育自己診断「本校では、地震や火災の際の対応は知らされている」生徒④(H30:データ無、R1:60.4%、R2:51.2%)を、R3では65%、R5には75%以上の肯定的評価とする。

(4) 社会に開かれた学校づくりを推進し、地域貢献を進める。

ア) ホームページの充実、学校説明会、中学校訪問の充実を図り、入試倍率をR4入試は1.00倍以上、R6入試は1.10倍以上を獲得する。

イ) 教養講座の充実と地域行事への参加を促進する。

※学校教育自己診断「本校は、さまざまな地域の活動に参加・貢献している」生徒④ (H30:データ無、R1:51%、R2:43%)の項目を、R3では60%以上、R5には80%以上の肯定的評価とする。

ウ) PTA、同窓会、後援会との連携の強化

※学校教育自己診断「学校ではPTA活動は活発である」保護者⑩ (H30:60.4%、R1:69%、R2:80%)の肯定的評価を、80%以上を維持する。

4. 高い志を持って、進路実現をするためのキャリア教育の充実

(1) 高・大・社を意識した系統的なキャリア教育の充実を通じて、進路実現の意識の醸成を行う。

※学校教育自己診断「希望進路や選択科目の指導はきめ細かく、適切に行われた」生徒⑨ (H30:データ無、R1:81%、R2:78.7%)をR3は80%以上、R5には90%以上の肯定的評価とする。

(2) 進路実現を可能にする学力の育成

※大学入学共通テストにおいて本校の各教科・科目の平均を全国平均以上にする。

(3) 国公立及び有名私大(関関同立産近甲龍・早慶上・MARCH)合格レベルの学力育成を支援する情報提供と学習指導の充実

※京大阪大神大府大市大を含め国公立大学への合格者数が、R3は25名以上、R5年度には40名以上とする。(H30:14名、R1:24名、R2:27名)

※関関同立+近の合格者の合計が、R3は130名以上(H30:96名、R1:138名、R2:128名)、R5には150名以上とする。

5. 教職員集団「チーム今宮」の育成

(1) ビジョン委員会-カリキュラムマネジメント委員会-運営委員会の活性化を図り、高大接続改革など新たな教育課題に挑戦し、伝統校としての魅力を持つ高校に改革するために、互いに切磋琢磨する教職員集団の育成を行う。

※学校教育自己診断「本校がめざす学校像を実現するために、教職員は同僚性を高め、協力して教育活動を行っている。」教員⑫ (H30:データ無、R1:28.6%、R2:50%)を、R3は55%以上、R5には65%以上の肯定的評価とする。

※学校教育自己診断「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている」教員⑬ (H30:データ無、R1:35.7%、R2:65%)を、R3は70%以上、R5には80%以上の肯定的評価とする。

(2) 教職員の授業力・キャリア教育力の向上を図る。

※初年度に学校教育自己診断「本校の学習だけで、進路達成に必要な学力が身につく」生徒⑥ (H30:データ無、R1:53%、R2:53.4%)をR3は55%以上、R5には65%以上、学校教育自己診断「教え方を工夫するなど先生方は授業に熱心だった」生徒⑩ (H30:74.3%、R1:69.2%、R2:76.9%)をR3は80%以上、R5には85%以上

(3) 情報共有を促進させ、ICTを有効活用できる教員の育成

※学校教育自己診断「本校は計画的に人材育成を行っている」教員⑭ (H30:データ無、R1:10.7%、R2:50%)を、R3は50%以上、R5には70%以上の肯定的評価とする。

(4) 仕事の平準化、合理化を推進し、「働き方改革」を行う。

※ストレスチェックの総合指数をR3は105以下に、R5には100以下に。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
1. 高い志を持って己を鍛える力の育成	<p>(1) 思考し、探究する力を育成</p> <p>ア 「今宮志学」の再検討、体系化を行う。</p> <p>(2) 自尊感情の育成、自己を律する力の育成</p> <p>ア 自己を律する力の育成</p> <p>イ 自尊感情の育成</p> <p>ウ 生徒の人的成長の促進</p>	<p>(1)</p> <p>ア 25期生の探究学習をモデルとし、思考力・判断力・表現力等を育成する探究的学習要素を体系化する。</p> <p>(2)</p> <p>ア 遅刻に表れる生徒の生活習慣の改善</p> <p>イ 教育相談活動の充実</p> <p>ウ 教育のあらゆる機会を捉えて、生徒の成長を促す</p>	<p>(1)</p> <p>ア 学校教育自己診断「産業社会と人間」・「総合的な探究の時間」生徒⑮3年生[65.5%]の肯定的回答を70%以上とする。</p> <p>(2)</p> <p>ア 遅刻総数[2647回]を2647回以下にする。</p> <p>イ 学校教育自己診断「先生方は生徒の意見をよく聞いてくれる」生徒⑯[60.6%]の肯定回答65%以上</p> <p>「担任の先生以外にも、気軽に相談することができる先生がいる。」生徒⑰[54.5%]の肯定回答を60%以上</p> <p>ウ 学校教育自己診断「本校に入学して人として成長したと思う」生徒⑱3年生[89.3%]の肯定感を85%以上とする。</p>	

	<p>(3) ユネスコスクール・SDGs への取組み</p> <p>ア ユネスコスクール・SDGs に全校的に取り組む。</p>	<p>(3)</p> <p>ア ユネスコスクール・SDGs を、自治会をはじめ、PTA・有志などあらゆる機会を通じて取り組む。</p>	<p>(3)</p> <p>ア 学校教育自己診断「本校は、ユネスコスクール・SDGs を推進している」生徒③⑥ [65.1%] を70%以上とする。</p> <p>学校教育自己診断「自ら課題を発見し、自分の身の回りから社会を変革する力がついた」生徒④ [60.1%] の肯定感を65%以上とする。</p>	
<p>2. 幅広い教養を身に付け、思考力・判断力・表現力を養い、主体的に学ぶ力を育成する。</p>	<p>(1) 質の高い授業の提供</p> <p>ア 授業アンケートの活用及び研究授業などの活性化</p> <p>(2) 思考力・判断力・表現力等の育成</p> <p>ア 「主体的・対話的で深い学び」の授業の促進</p> <p>(3) 学習習慣、家庭学習の定着</p> <p>ア 家庭学習の定着</p> <p>(4) 英語4技能習得推進</p> <p>ア 4技能をバランスよく習得</p>	<p>(1)</p> <p>ア・定量的授業アンケートに加え、生徒の自由記述による定性的アンケートを実施する。</p> <p>・各教科による研究授業、授業見学の促進</p> <p>(2)</p> <p>ア 「主体的・対話的で、深い学び」の教職員研修を実施し、深い学びを促進する授業を実践する。</p> <p>(3)</p> <p>ア 自学イベントの実施学習会サマーセミナーとウィンターセミナーの開催</p> <p>(4)</p> <p>ア 英語授業において4技能をバランスよく配した授業の展開を行う。</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・学校教育自己診断「学ぶことの意味について考え、授業を大切にすることになった」生徒⑤ [75.5%] を75%以上</p> <p>・学校教育自己診断「本校の授業・講習等だけで、進路達成に必要な学力が身につく」生徒⑥ [53.4%] の肯定感を55%以上とする。57.3% (○)</p> <p>(2)</p> <p>ア 学校教育自己診断「この学校の授業では、自分の考えをまとめたり、発表することがよくあった。」生徒⑩ [84.8%] の肯定感を85%以上にする。</p> <p>(3)</p> <p>ア 学校教育自己診断「家庭学習を毎日学習した」生徒⑧ [26.9%] の肯定感を40%とする。</p> <p>(4)</p> <p>ア 英語2級以上の取得生徒を2年終了段階で20%にする。[新規]</p>	
<p>3. 社会の多様性を認識し、「人・社会・世界」と繋がる力を育成する。</p>	<p>(1) 国際感覚と国際交流力の育成</p> <p>ア 海外姉妹校との交流</p> <p>(2) インクルーシブ教育の推進</p> <p>ア 共生推進教室開設に向けた知的障がい生徒との交流の促進</p> <p>(3) 防災活動の促進</p> <p>ア 地域の小中学校、地元住民と連携した防災訓練</p> <p>(4) 社会に開かれた学校づくり</p> <p>ア 広報活動の充実</p> <p>イ 地域との連携促進</p> <p>ウ PTA、同窓会、後援会との連携の強化</p>	<p>(1)</p> <p>ア コロナ禍を考慮し、国内でのプログラムを提供する。</p> <p>(2)</p> <p>ア 共生推進教室在籍生徒への理解促進と共に学ぶ教育の理解促進を行い、なにわ高等支援学校との自治会・クラブ・行事など交流の促進。</p> <p>(3)</p> <p>ア 小中学校、地元区民の防災計画を掌握する中で、連携のあり方を作成し、高校として防災に関してリーダーシップを発揮できるようにする。</p> <p>(4)</p> <p>ア ・中学生参加行事の充実</p> <p>・オープンスクール・学校説明会・クラブフェスタ等の効率的な開催</p> <p>・中学校へのトップセールス</p> <p>・パンフレットの見直し</p> <p>イ ・浪速区を中心とする地域・企業との連携促進</p> <p>・教養講座の継続開催</p> <p>ウ 年間行事について円滑な運営、連携に努める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 学校教育自己診断「本校は国際交流に力を入れている」生徒⑨ [43.6%] の肯定感を65%以上とする。</p> <p>(2)</p> <p>ア 学校教育自己診断「障がいがある人たちと『共に学び共に育つ』大切さを学ぶ機会があった。」生徒③⑧の肯定感を65%以上とする。[61.7%]</p> <p>(3)</p> <p>ア 学校教育自己診断「本校で、地震や火災の際の対応は知らされている」生徒④ [51.2%] の肯定感を65%以上とする。</p> <p>(4)</p> <p>ア ・R4年度入試において1.00倍以上。[0.98倍]</p> <p>・校長が40校以上を訪問。[新規]</p> <p>・新しいパンフレット作成 [新規]</p> <p>イ 学校教育自己診断「本校は、さまざまな地域の活動に参加・貢献している」生徒④⑩ [43%] の肯定感を60%以上とする。</p> <p>ウ 学校教育自己診断「学校ではPTA活動は活発であったか」保護者⑩ [80%] の肯定感を80%以上とする。</p>	

<p>進路実現をするためのキャリア教育の充実</p> <p>4. 高い志を持って、</p>	<p>(1) 系統的なキャリア教育の充実</p> <p>ア 高・大・社のトランジションを意識したキャリア教育の充実</p> <p>(2) 進路実現を可能にする学力の育成</p> <p>ア 講習の充実</p> <p>イ 自学自習システムの導入</p> <p>(3) 進学実績の向上</p> <p>ア 進学実績の向上</p>	<p>(1)</p> <p>ア 3年間の進路指導、進路行事を見直し、「キャリアアンカー」を育てる科目選択指導と連動したキャリア教育の推進</p> <p>(2)</p> <p>ア 進学講習の開催</p> <p>イ 教育産業のVOD学習を希望者に導入</p> <p>(3)</p> <p>ア 教育産業の模擬試験・学力学習実態調査・分析会などの活用を促進し、教職員の進学指導の力量の向上を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 学校教育自己診断「希望進路や選択科目の指導はきめ細かく、適切に行われた」生徒⑳〔78.7%〕の肯定感を80%以上にする。</p> <p>ア 大学入学共通テストにおいて平均点以上を獲得する生徒数をR2年度入試以上にする。〔426人〕</p> <p>イ 解説動画閲覧を全員に導入</p> <p>(3)</p> <p>ア ・国公立25名以上〔28名〕 関関同立+近の合格数 130名以上〔128名〕</p>	
<p>5. 教職員集団「チーム今宮」の育成</p>	<p>(1) 切磋琢磨する教職員集団の育成</p> <p>ア 学校経営計画を意識した教育活動の推進</p> <p>(2) 教職員の授業力・キャリア教育力の向上</p> <p>ア 授業力の向上</p> <p>イ 観点別評価の実施</p> <p>ウ キャリア教育の向上</p> <p>(3) 情報共有を促進させ、ICTを有効活用できる教員の育成</p> <p>ア Google、トップページを活用した情報共有</p> <p>イ GIGAスクール構想に基づくICTの活用の促進</p> <p>(4) 「働き方改革」の促進</p> <p>ア 仕事の平準化・合理化の促進</p>	<p>(1)</p> <p>ア 高大接続改革・新学習指導要領・観点別評価の実施・ICTの活用・共生推進教室の設置など、新たな教育課題に対して、学校経営計画を意識し、切磋琢磨する教職員集団の育成</p> <p>(2)</p> <p>ア 授業アンケート及び自由記述結果を活用した教科での検討会の実施。</p> <p>イ 新学習指導要領における観点別評価の導入に向けて、各教科で評価の在り方を検討し、試行・実施する。</p> <p>ウ 高・大・社のトランジションを意識し、「イベント主義」に陥らない系統的で計画的なキャリア教育を推進する教職員集団の育成</p> <p>(3)</p> <p>ア 校内での共有ツールとして学校トップページの活用を構築し、情報伝達や緊急用にGoogleを活用</p> <p>イ 新たなプラットフォームの導入と活用実践について研修を行う</p> <p>(4)</p> <p>ア やりがいをもって業務を行い、負担を軽減する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 学校教育自己診断「本校がめざす学校像を実現するために、教職員は同僚性をたかめ、協力して教育活動を行っている。」教員㉑〔50%〕の肯定感を55%以上にする。</p> <p>学校教育自己診断「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている」教員㉒〔65%〕の肯定感を70%以上にする。</p> <p>(2)</p> <p>ア 学校教育自己診断「各教科において、教材の精選・工夫を行っている」教員㉓〔92.7%〕の肯定感を95%以上とする。〔新規〕</p> <p>イ 学校教育自己診断「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている」教員㉔〔75.6%〕の肯定感を80%以上とする。</p> <p>ウ 学校教育自己診断「大学について理解することができた。」生徒㉕〔82.5%〕の肯定感を80%以上にする。</p> <p>(3)</p> <p>ア 学校教育自己診断「本校は計画的に人材育成を行っている」教員㉖〔50%〕を50%以上にする。</p> <p>イ 学校教育自己診断（新規設定）「学校はICT環境整備に努めている」生徒㉗〔新規〕の肯定感を75%以上</p> <p>(4)</p> <p>ア ストレスチェック総合指数を105以下にする〔105〕</p>	